静岡
ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER

3月1日水曜日
昭和53年（1978年）

発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　堀田　哲爾
清水市七ッ新屋 291
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市真砂町1－12
編集専用電話66－5282（代）

昭和49年5月1日第三種郵便物認可
毎月1回1日発行　1部30円

PEPSI

第10回静岡県サッカー少年団大会

ペプシ杯の優勝決まる

中学生は清水六中と八中が引分け優勝

小学生は藤枝中央が優勝！

記念すべき第十回静岡県サッカー少年団大会は二月十一、十二、十九日の三日間、少年サッカーの地、清水で開催され、県下各地より四十八チームが参加 最高のにぎわいとすばらしい技術の大会であった。

開会式は豪華顔ぶれ

開会式には大物がズラリと並んだ。稲名清水市長をはじめ、県体協会長の佐野嘉吉氏、岩崎茂県スポーツ少年団本部長、中沢社会人部長、岡村体育課長、油井教育長等、役職にある方々が三十名、市内少年指導者は八十名観衆は千二百人集まり華々しく行われた。

入江のバンドに合わせて入場する姿はすばらしい少年のゆめを乗せるものであった。

すばらしい宣誓

「宣誓、ぼくは三年生からサッカーをはじめました。そして今、ここに第十回静岡県サッカー少年団大会に参加する栄誉を得ました。自分のもっている力と技を出し、せいせいどうどうとたたかうことを誓います！」

これは清水小キャップテン大塚君の元気あふれる堂々とした宣誓である。今まで聞いたこともないすばらしい声と内容であった。

一回戦清水勢は全勝

岡2対1、入江2対0、清水6対0、有一5対0、庵原1対0、六中5対2、八中3対0、全てのチームが初試合をものにした。

残念だったのは七中高松を押し気味に進めたゲームを一つのミスで失ってしまった。

二回戦で有一が散る

中央に3対1で有一が敗れた。金田、塚本松下の調子がいま一歩でない。県大会に不運のチームとして名の通った有一であったが、最後までがんばった。敗けた試合のあとOBの三田さんの父親で育成会のメンバーだった方の事故死を知らされ、チームとしては一層力を落としていた。

来年またある。県大会出場もあやぶまれていたのに、よくがんばった。

準決勝に小学校3　中学校2

今年は清水勢がよくがんばった年である。入江が優勝したときも、第三回大会のとき、三チームがベスト4に残ったがそれ以来である。

中学生も八中と六中がベスト4に入った。

平木前会長に感謝状

平木理平氏が十年前にこの大会をつくったのである。もう十年たった。ブロンズの像に貼ったペナントには大きく「感謝状」と書き刻まれている。昨年は贈る立場にあり、今年は受ける立場、感慨無量である。

小花、大塚、高橋氏にも功労賞が贈られた若い人たちも、いつ自分がもらえるか期待の声がある。

永久に刻まれた氏名少年にかけた愛の象徴である。すばらしい表彰であった。

各会場で育成会が活躍

清水小では行方育成会会長が音頭をとり運営し、入江でも、庵原でも、市営でも、指導者といっしょになって県内から来てくれている選手たちの世話をしてくれた。

ペプシコーラ係、べんとう係、ライン係、得点係、連絡係、駐車係……なれない仕事であるが、子どものために活躍。「サッカーの試合を自分達がやったほうがらくですね。」

本部では　声援ができません

入江会場ではテントの中から自校チームの声援。本部からは応援はできません。外でやってください——といわれガックリ。声をだすつもりはなかったんですけどねえ。

やっぱり大会に参加しなくては

レフリーの先生方は毎日正装でさっそうとレフリーの仕事につとめている。制服着るとうまくなるねえ、かっこいいよ、の声に、こんな仕事よりやっぱり大会に出場しなくてはね……、と十一回大会にもう闘志を燃やしている。

少年サッカー指導教程 ㉑

日本サッカー協会公認コーチ　堀田　哲爾

ディフェンス——深さ

攻めても攻めても入らない時がある攻撃のまずさを指摘する場合が多いが、その場合バックのポジションを変えてみる必要がある。

◎予測するプレーは深さがある

相手の攻撃に対していくつかの予想をたて相手のプレーにより予測する。そして位置を修正していくうちにボールに引っかかる場合が多い。特に予測した動きはディフェンスの深さを深めるもとになる。

◎さがるのが深さではない

厚みのあるバックとは、相手の動きの前にはだかることではないまた後ろのほうでさがって待っていることでもない。相手のパスを長いパスの場合とらえるプレーヤーと、短いパスをとらえるものとに区別していくと、この事実がはっきりします。

◎スルーパスを通させないポジション

ゴール前でのスルーパスは左右にふられた後とか、ドリブルで引っぱられた時に多い。スルーパスを出させないことは大切であるがドリブルやセンタリングに対するポジションを決めることが大切である。

◎スイパーをおくことが深さを増すことにはならない

守備に厚みや深さをもたせるのに、いろいろなやりかたがあるが代表的なものにスイパーを配して最終ラインをかためる方法がある

しかしそれらの配置は攻撃力を低下させる結果となっている場合が多い。特に少年時代にこのようなシステムをとることはカバーリングの能力や、密着マークの原則からはずれた指導になりがちであるからやめたほうが良い。

◎前線のプレーヤーが積極的に守備にまわることが深さを増す最大の力となる

両ウイングが相手のハーフをマークしながらさがってくることによって第一ディフェンスラインが前のほうにできる。この時間で完全な守備ラインができてくる。FWのディフェンスは相手にボールが移った時からはじまると考えることが望ましい。

◎相手の攻撃をスローダウンさせる

厚みや深さのある守備をつくるには時間を必要とする。五秒かかるものならば、五秒間に相手のプレーを遅らせる必要がある。

◎中央を厚く守れ

ゴールに近い中央は厚く守ることが相手にとっては得点しにくい中央部に人的優位をもつことこそ深さをつくる原則である。そのため両ウイングはゴールをめざして帰じんすることが大切である。

第1回全国中学生選抜大会

静岡代表チームのメンバー決まる！

第一回全国中学生選抜大会は三月二十八日より東京三菱養和グランドと西ヶ丘の両グランドにおいて開催されるが、静岡県代表チームがこのほど決まった。

今年は清水チームが中心となって編成、その他に高松中から二名大里中のエース大井、由比の豊島が選ばれた。

大会は四月一日まで全国ブロックより各一チームが参加する。優秀選手発掘を叫ばれている折だけに、その意義は大きく、各方面の期待を集めている。

本年はブロック大会なしの中央大会であるが、おそらく来年は東海のブロック大会をかねて選考が行われなければならないであろう。

選手役員は次の通り

全日本選抜中学生大会参加選手

引卒代表者　中井　洋
監　督　矢沢　秀敏

GK	水野　陽一	14才	清水七中
BK	小沢　透	14才	清水七中
	勝山　明彦	14才	清水七中
	一之瀬宏樹	14才	静岡高松中
	塩原　啓喜	14才	清水庵原中
	柴田　佳直	14才	清水三中
	川口　智則	14才	清水庵原中
HB	豊島　寿文	14才	由比中
	大井　正宏	14才	静岡大里中
	柴田　豊	14才	清水庵原中
	川村　昭仁	14才	清水七中
FW◎	反町　康治	14才	清水七中
	加藤　勇	14才	清水庵原中
	山下　浩享	14才	静岡高松中
GK	杉山　浩康	14才	静岡高松中

県高校サッカー新人戦

静岡工業が優勝！

第十五回高校サッカー新人戦は今年沼津を中心に行われた。ベスト8には静工、藤枝東、自工、浜名、清水東、浜松工、清水商業、焼津中央の名門校が今年も戦った。

決勝には静工と藤枝東の対戦となり、お互いにディフェンスを重視した試合。シュートは両軍十一本の互角であった。

中盤にいる一宮のうまい動きで望月が決め新人戦三度目、六年ぶりの優勝をかざった。

両軍にパーマをかけた選手が目立ち、高校生らしいサッカーができるか心配したが、プレーは学生らしいプレーが展開され、関係者を安心させた。しかしサッカー界にも時代の変化とヤングスタイルが入りこんだことについては、良い印象を与えなかった。

なおこの大会に先だ三十五才以上の指導者の間でフレンドリーマッチが行われ、昔ならした名プレーが数多く見られた。静工の松本氏、藤枝東の長池氏をはじめ、高体連部長の福本氏が活躍、先取点は勝沢氏があげ、同じく勝沢氏がアシストで福本氏が決めるなどして指導者チームが3対2でSBSチームをくだして、高校生の見ている手前面目を果たした。

第10回静岡県サッカー少年団大会試合結果

【小学生の部1回戦】

岡	（清水）	2－1	長泉北	（東部）	
西豊田	（静岡）	3－0	浜　名	（西部）	
藤　枝	（藤枝）	4－0	細　江	（榛原）	
芳　川	（西部）	3－2	裾　野	（東部）	
小　川	（志太）	5－2	愛　鷹	（東部）	
由　比	（庵原）	1－1	船　越	（西部）	PK勝
入　江	（清水）	2－0	服　織	（静岡）	
稲　葉	（藤枝）	6－2	清水町	（東部）	
金　谷	（榛原）	2－1	黒　田	（東部）	
清　水	（清水）	6－0	高　州	（藤枝）	
岡　部	（志太）	4－1	青　葉	（静岡）	
浜松東	（西部）	1－0	大　見	（東部）	
中　央	（藤枝）	5－3	河　輪	（西部）	
有度一	（清水）	5－0	大井南	（志太）	
庵　原	（清水）	1－0	飯　田	（西部）	
久　能	（静岡）	2－2	今　泉	（東部）	PK勝

【小学生の部2回戦】

岡	（清水）	3－0	西豊田	（静岡）
藤　枝	（藤枝）	4－1	芳　川	（西部）
由　比	（庵原）	3－1	小　川	（志太）
入　江	（清水）	1－0	稲　葉	（藤枝）
清　水	（清水）	3－1	金　谷	（榛原）
岡　部	（志太）	5－0	浜松東	（西部）
中　央	（藤枝）	3－1	有度一	（清水）
庵　原	（清水）	2－1	久　能	（静岡）

【小学生の部準々決勝】

岡	（清水）	1－1	藤　枝	（藤枝）	PK勝
入　江	（清水）	2－1	由　比	（庵原）	
清　水	（清水）	3－1	岡　部	（志太）	
中　央	（藤枝）	3－0	庵　原	（清水）	

【中学生の部1回戦】

西益津	（藤枝）	2－0	南　陽	（浜松）
清水六	（清水）	5－2	由　比	（庵原）
西　部	（浜松）	1－0	長　泉	（東部）
高　松	（静岡）	1－0	清水七	（清水）
榛　原	（榛原）	2－1	大　里	（静岡）
藤　枝	（藤枝）	5－0	蜆　塚	（浜松）
南　部	（浜松）	1－0	愛　鷹	（東部）
清水八	（清水）	3－0	港	（志太）

【中学生の部準々決勝】

清水六	（清水）	1－0	西益津	（藤枝）
高　松	（静岡）	3－0	西　部	（浜松）
榛　原	（榛原）	2－1	藤　枝	（藤枝）
清水八	（清水）	5－0	南　部	（浜松）

【中学生の部準決勝】

清水六	（清水）	0－0	高　松	（静岡）
（延長のすえPK3－2で勝）				
清水八	（清水）	5－1	榛　原	（榛原）

【中学生の部決勝】

清水八	（清水）	0－0	清水六	（清水）
（引き分け，両チーム優勝）				

【小学生の部準決勝】

中　央	（藤枝）	1－0	清　水	（清水）
岡	（清水）	2－1	入　江	（清水）

【小学生の部決勝】

中　央	（藤枝）	1－0	岡	（清水）

【女子の部】

入　江	（清水）	2－0	西河内	（清水）

第13回清水市社会人リーグ

日経杯争奪のA・B・C各リーグ開幕！

今回は第十三回目を迎え、ますます充実したリーグ戦が予想される。従来は四月に開幕していた同リーグは、グランド不足のため九〜十試合を消化するのに七ヶ月以上もかけていたが、各中学、高校の先生方のご配慮で、その期間を大巾に短縮できそうである。

今回のリーグ戦の展望はというと、各リーグとも激戦が必至である。

〈Aリーグ〉日本リーバ　初優勝なるか！

ここ二、三年、常に上位にランクしている日本リーバが初優勝なるか期待されている。これに前回優勝の庵原クラブをはじめ八坂エース、小糸、それにAリーグ二年目の東洋製缶等が入り、激戦が予想される。

新加入のラジェ、ヤヨイもおもしろい存在で大いに期待される。特にラジェはCリーグでBリーグを連続優勝でかざり、待望のAリーグ入りを果たした訳であるが、どこまで通じるか非常に興味深いところである。

〈Bリーグ〉清水製薬の　発憤に期待！

前回Aリーグ入りを目前にしながら痛い黒星を喫した清水製薬がどこまでチームを立てなおし、リーグ戦に臨むかがみものである。

これに武田薬品、旭新加入の丸徳、駿河などが入り交り、こちらも激戦の様相を呈している。また着実に実力をつけてきたシルバーホーク等もおもしろい存在である。

〈Cリーグ〉東海一OBか　大和製缶か？

実力伯仲で激戦必至であるが、そのなかで東海一OB、大和製缶が頭一つリードしているといった感じである。

しかし各チームとも今リーグ戦にメンバーを補強して臨んでいるところから予断を許さない状況である。

どこまで集中力を維持できるかが、今リーグ戦の勝敗の別れとなろう。

第一回駿河湾カップ少年サッカー大会

清水小イレブン東海小を破り初優勝

東海小、三保一、三保二、駒越、不二見、清水小の六チームで行われた第一回駿河湾カップ少年サッカー大会は二月四日、五日の県大会一週間前の土日に行われ、清水小が初優勝をかざった。

決勝戦は東海小との対戦となったが延長の末、清水小が2対1で幸勝した。

五試合とも充実した試合がみられ、特に駒越小の進歩がいちぢるしかった。不二見は一回戦での三保一との対戦では自信あふれるプレーがみられたが、準決勝で清水に大きく4対0と水をあけられ完敗だった。

東海もすばらしかった。特に決勝で見せた五年生山口、瀬戸は将来が楽しみである。五年生が中心になっているチームだけに来年は相当楽しめそう。

三保二もよくがんばったが最下位。しかし三保一との順位決定戦では失点よりも点を取りにいくサッカーをつくり、好感がもてた。

中伊豆ニューライフクラブ　ジュニアSフェスティバル

県内より六チーム参加

三月二十七日より行われる中伊豆フェスティバルはニューライフホテルを使ってのデラックス大会として注目されているが、この大会に富士選抜、清水FC五年、三保二、江尻清水小の五団六チームが参加することになった。

三日間交歓試合とセルジオサッカー教室までであり、安い宿泊費での技術向上をめざす大会として県サッカー協会も後援している。

第一回全国少年選抜　岐阜招待サッカー試合

清水市辻小チーム初優勝！

県大会予選でおしくも六位に入り、出場権を失った清水市辻小は規約通り岐阜招待サッカーに出場、見事初優勝をとげた。

大会は全国より十六チームを集め、トーナメントで行われた。主な参加チームは藤枝青島東、刈谷サッカースクール、名古屋YMCA、四日市、兵庫東瀬等、全国大会でも顔なじみの強化チームが参加したなかで、都市選抜チーム中単独チームの優勝は清水のサッカーのレベルの高さを示している。

しかし決して楽な優勝ではなかった。準決勝は4対0と大差をつけたものの、あとは全て1点差の試合。特に刈谷サッカースクールは、いわば清水のライバルチーム。全国大会でも清水FCと7対0で敗けているだけに何とか優勝をと、スクールあげての声援によくがんばり延長戦となった。

しかし連続四試合の疲労にもめげず、終了1分前に加点2対1で優勝した。

辻小ひさびさの優勝旗に小花、綾部両指導者も清水FCでの優勝経験は数多くあるが、フランチャイズチームの優勝は久しぶりと、ゆるみっぱなしであった。

井上、城之内、朝倉手島、大石、斉藤、園川、藤浪、長阪、それに五年の達川、杉山、鈴木等もよくがんばった。

辻小の指導者は「来年はこの旗は他のチームに岐阜へ持っていってもらいます。」と県大会出場のスタートともいうべき発言をしていた。

さてこの優勝旗を岐阜大会に持って行く名誉ある（?）チームはどこだろうか。

編集ノート

三月末に清水市で開催される高校サッカー親善試合の大会も今年で五年、読売新聞社寄贈の郷土色豊かなオレンジ色の優勝旗を目指して、北は北海道、南は九州からと全国の強豪チームが参集しての熱戦を『高校サッカー春のファンファーレ』といってくれた人もいる。今年も参加したチームの中から前年度同様に、インターハイ、国体、全国大会の優勝チームが生まれることを期待したい◆一月五日第一回フラミンゴ杯県女子サッカー大会、同十五、十六、十九日清水JC大会、二月に入って十一、十二、十九日県サッカー少年団大会、同二十六日フジタ対全静岡の招待試合一月と二月の日曜、祭日八日間サッカーグランドでふるえながらカメラを持って立っていたが、どうやら風も引かずにこの原稿を書いている。東京、横浜、あちらこちらから近頃顔も見せないとの噂さも聞くが、顔を出さない原因は決して長期不況や構造不況も健康上でもないという言い訳代りの近況報告を紙上で。（二本木）

第五回全国高校サッカー招待試合

読売旗争奪戦に

全国の強豪激突！

二連覇なるか国士館大ジュニア

五年目を迎えた全国高校招待サッカー清水大会は今年も三月二十七日から清水市内の高校で行われるが、全国の有名校が三十二チーム集まる。

全国選手権優勝の帝京高と、同じく準優勝の四日市中央工高、インターハイ優勝の島原商高をはじめ北は北海道、南は四国・九州から集まってくる。春の名物大会となってきた四日市工や韮崎高にとってもこの大会は欠かすことのできない大会で、次年度の強化の計算機にもなっている

また昨年から大学のジュニアにも参加してもらいレベルアップを考えてきたが、今年も国士館大学が参加する

昨年、一試合ごとに強くなってきていることから、今年も二年連勝の呼び声が高い。しかし地元勢も今年に賭ける意気込みは強く、新人戦で不覚をとった清水商高をはじめ、チャンピオンの静岡工高一年生中心の清水東、鈴木を中心にまとまった自工等、各ゲームに興味をそそることになりそうである。

各県より来清するチームは当期間中に県サッカー協会では東部でも十六チームの大会、藤枝ではフリー参加の交歓会、浜松でも浜名中心に八チームの大会が行われ、三月の末は全国の最強チームがひしめいている。

第5回高校サッカー親善試合

ブロックリーグ戦 組合わせ表

	A	B	C	D	E
1	帝京高	四日市中央工	島原商業高	国士館大J	韮崎高
2	室蘭大谷高	児玉高	古河一高	仙台育英高	佐賀商業高
3	郡山商業高	三本木高	松本県ヶ丘高	松本工業高	枚方FC
4	大槌高	新潟工業高	朝鮮中高級	日大付属高	大垣工業高
5	静岡学園高	静岡工業高	清水東高	自動車工高	清水商業高
6	東海工業高	清水工業高	東海大一高	清水南高	静岡高

第四回中学生フェスティバル

全国から参加の27チーム決定！

第四回中学生全国サッカーフェスティバルは三月二十五日より静岡市を中心に行われるが、このほど参加チームが決定した。

全国優勝の本太のほか児玉、刈谷南、上野枚方など全国大会でもおなじみのチームがズラリ並んだ。

当日は全国選抜大会が東京で行われているため優秀選手の参加していないチームもあるが、それでも埼玉、大阪は選抜大会不参加のため、最強チームで来静している。

大会は二十五日から清水、藤枝、静岡の三会場に分かれて行われるが、各チーム最低四試合、多いチームは十一試合を消化していくとはりきっている京都の西京クラブなどがある。

この時期に一、二年生を中心とした強化のスケジュールは年間活動にも大きく左右し、この大会の意義の大きさを痛感する。

参加他県チームは次の通り。

第4回全国中学生サッカーフェスティバル参加チーム

大町	長野	島	岐阜
仁科台	長野	間々田	栃木
辰己台	千葉	松山	埼玉
楠	三重	赤石	兵庫
西ノ京C	京都	長良	岐阜
京陵	熊本	大槌	岩手
枚方	大阪	古河一中	茨城
高根	千葉	本太	埼玉
神戸FC	兵庫	刈谷南	愛知
上野	兵庫	常盤	埼玉
下北山	奈良	洛陽	京都
梅林	岐阜	塚越	神奈川
高槻三中	大阪	児玉	埼玉
高槻九中	大阪		

少年サッカーとチームプレー

意志のトレーニング

技術、戦術、体力、気力、どの分野をとってもサッカーのゲームのなかで欠かすことのできないことである。これらがバランスのとれた選手づくりをコーチはいつも考えていかなければならないことは事実である。

しかし、それ以前に割合忘れられているのが意志のトレーニングである。

具体的には、一つの仕事をやる時めあてを持たなければならない口でどんなに説明しても、大きな声でどなっても、人の意志を育てることはできたい。それでは自然に育つもとかといっても、そうではない。

子どもの意志を高めることこそ、時間をかけなければならないことが大切である。

意志というのは話を聞いていて、はっと思ってそれから育っていくものではないからである。小学校の授業に道徳の時間があるが、意志を育てる時間として考えて良いだろう。

しかしこの四十五分で育てるわけではないこの時間きっかけをつかむ時間である。その後のアフターケアーが大切であって、この時間に使ったことが実生活の中で、学校の中では仲間や教室の中でそのきっかけを生かすはたらきをすることが大切である。

しかもこれを永く続けることが大切である。指導者自身が本当に道徳の時間に指導したことを生活の中に生かして、はじめて子どもの意志として育っていくものである。

サッカーの指導の中でも、子どもにこんな意志を育てなければと思ったら、そのきっかけの時間は充分かけてまず感動のある方法でつくることである。その後、ゲームの中でもトレーニングの中でもそのことが生きてくる練習の方法を工夫しなければならない。

パスしたら走れと教わったから走ることとパスしたら走らなければならないと考えること、パスしたら走ったほうが味方に有利になるという考え方に変えていくことが、意志のトレーニングである

そのためにはどんな練習が良いか、どの程度のアドバイスが良いのかを考えなければならない。どのように意志を育てていくか考えるだけでも、良い指導者への足がかりになることはたしかである。

意志を育てようとする行動こそ、子どもの意志のトレーニングの出発である。（哲）

静岡サッカーカーニバル！

四月九日に開催

日本サッカー協会主催サッカーフェスティバルは四月二日国立競技場を中心に行われるが、静岡サッカーカーニバルは四月九日に決定。その内容は高校新人戦優勝の静工対浦和南高を予定。前座には県婦人サッカーフラミンゴ大会で活躍したファーストレディーと河輪チームを招待、チャイルドの試合と合わせて期待されている。

昨年はチャリティーバザーを行い好評だったが、今年も行う予定

大日本サッカーリーグ第二節にあたり、同時開催も予定されている。詳しくは次号で紹介する。

PEPSI

昭和53年度全日本大学第2次強化合宿参加者

GK	坪田　和美	法政大	HB	後藤　元昭	大阪商業大
	橋本　健一	筑波大		河内　勝幸	大阪商業大
	加藤　好男	大阪商業大		山野　孝明	大阪商業大
	大石　雄一	中京大		久米　一全	中央大
FB	成田　順一	法政大		長沢　和明	東京農大
	菅又　哲男	法政大		宮成　隆	早稲田大
	玉井　朗	筑波大		宮本　昭義	東京農大
	沢田　久作	東京農大		加藤　正明	法政大
	根岸　章	法政大		田中　孝司	明治大
	山野　孝義	大阪商業大	FW	中村　一義	法政大
	西村　昭宏	大阪体育大		田嶋　幸三	筑波大
	久野　裕一	同志社大		坂上　孝哉	東京農大
	須藤　茂光	中央大		木村　和司	明治大
	桜木　浩二	筑波大		梅田美一郎	法政大
	八木　智嗣	法政大		長谷川治久	大阪商業大
HB	小池　哲郎	日本大		塩田　龍彦	大阪商業大
	岡田　秋人	筑波大		高間　武	大阪体育大
	川勝　良一	法政大		川口　勝	大阪商業大

◎強化合宿スタッフに推薦を委任する者

HB	田中　喜生	明治大
	吉越　利光	法政大
FW	山口　隆文	筑波大

大学生強化合宿

海外遠征候補に

県出身者14名！

大学生の強化を目的とした大学連盟が今回海外遠征の候補のリストアップを発表した。その中になんと本県出身者が十四名も入っていた。

全て小学生からサッカーをはじめた選手ばかりで、正式選手になれるよう期待されている。

第三回日韓高校サッカー

県代表のメンバー決まる！

今年は大邱に行くことになっている第三回SBS日韓親善試合静岡県代表チームは新人戦の終了した二月十二日に県高校技術委員会で決定した。

すでに決定している高橋、山本、鈴木の指導スタッフに、県サッカー協会より総監督に福本利幸氏、副総監督に苫米地康文氏、技術指導部長に勝沢要氏技術委員長を決定、六名の指導団員全部が決定した。

選手は現在の力を評価し、時間をかけて選考が行われたが、ゴールキーパーには森下がまず決まり、ポジションではフォワードの人選に苦心があった。特に県内にストライカーの不足が目立ったが結局、佐野、池谷、宮原の他に遠藤、大石が決まった。

バックにはストッパーの今田、スイーパーの石神サイドバック杉山、石神の布じん、他に一年生で風間が選ばれたのが目につく。

ハーフではディフェンスハーフの杉山のほか小西と自工の鈴木に期待が大きい。

なにはともあれ、昨年のコンディションの失敗もあり、精神的に強いプレーヤーを要求され、特にパーマをかけた選手については条件つき選抜となるほどきびしいものであった

しかし現状の技術の上で選出し、合宿の中で指導して正しい学生らしいサッカーを貫いていく指導者の意気込みに大きな拍手を送りたい。

ユース選手の選出でも問題になる性格とか気質を変えていこうとする指導者の意気込みこそ、韓国において勝利を呼ぶものと信ずる高橋氏の強力な精神指導に期待したい。

全員丸坊主でも堂々とたたかう人間をつくるための韓国遠征にしてほしいものである。

韓国遠征高校選抜メンバー

本部	福本利幸	沼津工高	
	勝沢　要	清水東高	
	苫米地康文	清水商高	
監督	高橋節夫	自動車工高	
GK	菅藤	藤枝東	2年
	川島	静岡工	2年
FB	石神	藤枝北	2年
	石神	藤枝東	2年
	杉山	静岡学園	2年
	今田	浜名	2年
	石垣	静岡工	2年
	福島	静岡工業	2年
HB	杉山	静岡学園	2年
	小西	藤枝東	2年
	鈴木	自動車工	2年
	小林	浜松北	2年
	大石	静岡工業	2年
	増井	静岡工業	2年
FW	佐野	清水商業	2年
	遠藤	清水東	1年
	池谷	浜名	2年
	大石	静岡	2年
	一宮	静岡工	2年
	山田	御殿場南	2年

第二回清水市育成会女子リーグ戦

清水ファーストレディー初優勝！

清水市育成会女子サッカーリーグは九月より第二回目をむかえ二回戦総当たりで行われたが、最終戦を前にして清水チャイルドファーストレディーが優勝した。

ファーストレディーチームは正月に行われたフラミンゴ杯県選手権大会に初優勝したチームで、これで二つのタイトルを手中にした

今年の大会は入江と有一が加わった六チームのリーグ戦であったが、各チームが強力メンバーとなり、星のつぶし合いが続き、前回優勝の清水小マドモアゼルも有一に1対0で敗れ、東海は清水に敗れ、高部は3対1で東海に敗れるという大番狂わせがあったが、入江と0対0で引き分けのチャイルドが着実に勝星をあげた。

第三回リーグ戦には神師も参加することになっており、ますます熱い大会にエスカレートしそう。今後全日本女子サッカー連盟結成の動きと同時に、全国のリーダーとなる素質充分な大会であった。

得点王はフラミンゴ杯でも活躍した綾部さん。吉村キャップテンも口をそろえて「今後全てのチームに勝つことだけ考えます」とのこと。

四月九日に行われる静岡県サッカーフェスティバルの出場も決まって練習にますます力の入るファーストレディー諸君である。

PEPSI

53年度東海協会の大会日程決まる！

新理事長に堀田氏就任

昭和五十三年度東海四県サッカー協会理事会は二月四日、四日市で行われ、今年度の東海四県関係の日程を決定した。

また役員の改選では本年度より二年間静岡県が担当となり、理事長に県代表の堀田氏が任命された。

東海四県の理事長は自動的に日本サッカー協会の理事となるよう決まっている。

日程では天皇杯の代表が少くなり東海で十二チーム。その他に東海選手権が新設された日程、組合わせは次の通り。

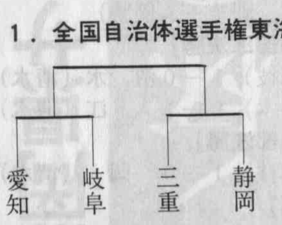
昭和53年度

各種大会組合わせ表

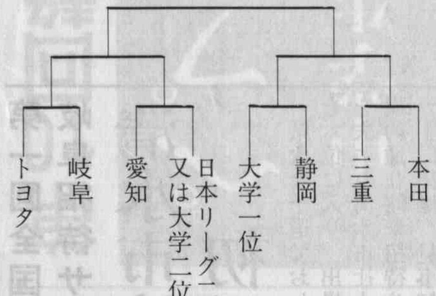
東海サッカー協会

1．全国自治体選手権東海予選　53年7月2日　愛知県会場

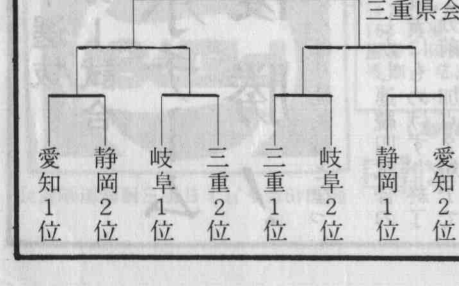
※藤枝市役所は全国大会へ推薦出場



2．東海選手権　54年1月7日14日15日

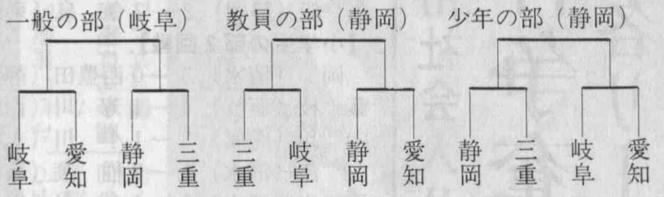


3．東海社会人大会　53年11月18日19日　三重県会場



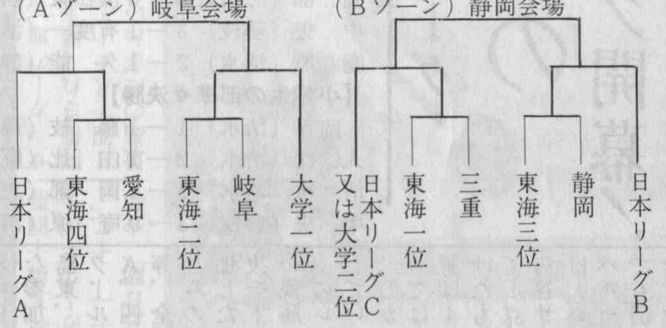
4．第33回国民体育大会東海予選

一般の部（岐阜）　教員の部（静岡）　少年の部（静岡）



5．第58回天皇杯選手権東海予選　53年10月29日11月3日12日

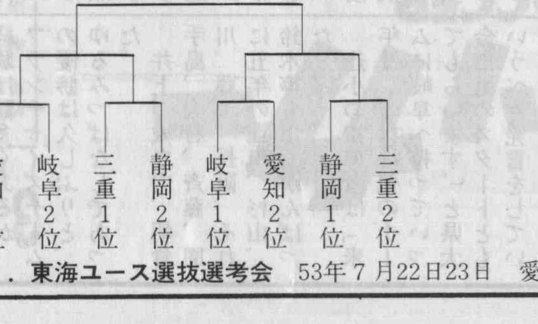
（Aゾーン）岐阜会場　（Bゾーン）静岡会場



各県1チーム
大学1チーム
東海リーグ3チーム
日本リーグ2部3チーム

日本リーグA．B．Cは日本リーグ2部の前期の成績順位で入れていく

6．東海小学生サッカー大会　53年12月2日3日　刈谷会場



7．東海ユース選抜選考会　53年7月22日23日　愛知県会場